



1 代表取締役社長
高橋 弘二
業務推進室、社長室、秘書室、
内部監査室、特定事業企画室、
環境安全統括室、
品質化学品統括室担当

2 代表取締役専務
中村 一男
生産機構総括、推進機構総括 /
購買本部、海外事業本部担当
CSR・リスク管理推進本部担当
最高情報セキュリティ責任者

3 社外取締役
瀧野 裕之

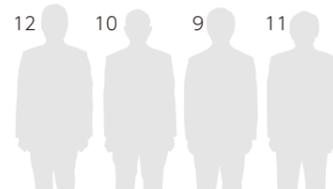
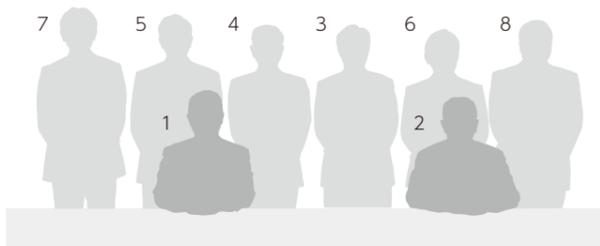
4 社外取締役
山田 恒太郎

5 取締役
榊原 俊哉
推進機構担当 /
事業管理本部、
経理・財務本部、
情報システム本部担当
最高財務責任者

6 取締役
齋藤 修
生産機構担当 /
各製造事業所、生産推進本部、
施設・設備本部担当
CSR・リスク管理推進本部本部長

7 取締役
多田 和資
事業機構総括 /
顔料事業部、合樹・着材第1事業部、
ファインポリマー事業部、
オフセットインキ事業部、
新規事業開発本部担当

8 取締役
小城 義尚
技術機構総括



9 監査役
川田 勝久

10 監査役
蒲生 善郎

11 社外監査役
伊東 君男

12 社外監査役
佐藤 幸平

役員紹介／CONTENTS 01

トップメッセージ／企業理念 03

私たちが大切にしてきたもの 05

価値創造プロセス／経営方針・経営指標 07

事業部紹介 09

研究開発部門紹介 13

CSRとマネジメント 15

コーポレート・ガバナンス 17

社会性報告／お客様とのかかわり 19

社会性報告／人材育成・活用 21

社会性報告／社会とのかかわり 23

環境性報告／環境マネジメント 25

環境性報告／環境管理活動評価と次年度目標 27

会社概要／連結決算ハイライト／株式基本情報 29

グループネットワーク 30



Webサイトのご案内

より詳しい企業情報、IR情報、CSR活動に関する情報は、
Webサイトで報告しています。

大日精化工業コーポレートサイト
<http://daicolor.co.jp/>

IR情報
<http://daicolor.co.jp/ir/index.html>

CSR活動
<http://daicolor.co.jp/csr/index.html>

コミュニケーションツールのご案内

Corporate Profile

製品案内2019-2020

編集方針
当社は2005年度から「環境報告書」を、2010年度から「社会・環境報告書」を発行してきました。2013年度からは会社案内の機能を追加して「コーポレートレポート」と改称しました。本レポートはステークホルダーの皆様へ、当社グループの事業内容とともに、社会性活動及び環境管理活動に対する考え方と取り組みをわかりやすくお伝えできるように作成しています。

- **報告対象範囲** 当社及び当社グループを対象としています。環境性報告は当社及び当社国内グループの実績を掲載しています。
- **報告対象期間** 2018年4月1日～2019年3月31日
※ただし、一部事柄については、本対象期間外の活動も含みます。
- **参考ガイドライン** 環境省「環境報告書ガイドライン2012年度版」



新しい時代とともに、 新しい大日精化の創造に挑戦していきます

代表取締役社長 **高橋弘二**

■ ボーダーレスのなかでのグローバル化

当社グループの経営方針に「海外売上高比率 50%の達成」を掲げています。これは海外での販売を伸ばすことに間違いはないのですが、「グローバル化」という言葉に誤解があるようにも思っています。

少子高齢化や人口減少が課題となっている国内は伸びしろが少ないことは確かで、人口を追って将来的に伸びていくマーケットに行くのであれば、いやでも海外に出なければならぬ。一方で、これだけ広い海外がマーケットとしてあるわけですから、チャレンジ精神を持って、出ていけない手はないだろうという2つの側面があると考えています。

以前はチャレンジ精神で出ていった感が強いですが、いまはかなり世界が狭くなってきているため、特に海外進出を意識せずとも必然的にグローバル化は進行しています。海外に行くことがかつてほど特殊事情ではなく、生活環境もかつてに比べれば均一化されています。そのグローバル化という言葉がそろそろ古くなって、国境はボーダーではないという認識の世の中になってもいいのではないかと考えています。

まだ国内にもよいマーケットがあるのかもしれませんが、ただ、総じてみると、国境というよりも人を追っかけていくこと、当社事業の更なる発展可能性を地球規模で追求していくことが現実的なのかもしれません。マーケットを追っかけていった場合に、たまたまそこが海外だった、そこでチャレンジして、どう事業を伸ばしていくかと考える、ということが理想だと思います。

■ 企業理念に託すもの

私はどんな仕事でもチャレンジがあるべきだと思っています。1つの仕事をゴールへ導くために、チャレンジするものを見つけて、自分らしさを出して、ワクワクしながら仕事を進めていけるかが要なのです。与えられた仕事を与えられたと思うのか、自分から取りにいくと思うのかでもまた違います。そこからどうやって、よりよい結果を出すこと、よりよい仕事のやり方にもっていくかもチャレンジであり、従業員自身がモチベーションを持って仕事に挑むことが、企業にとっても一番大事なことだと考えます。

さらに、そこにやりがいを持って挑めるのが大切です。楽しいという仕事はたくさんあるとは思いませんが、やりがいがあったり、達成感があるような仕事を与えたいですし、従業員にもそういうものを自分自身で見つけることを期待しています。

■ コーポレートレポートを通じて

今年元号が令和にかわり、新しい時代を迎えました。当社も2021年に創業90年を控えています。SDGs（持続可能な開発目標）を念頭に、「攻略市場と戦略製品の選択と集中」を図るなどの施策を持って、新しい時代を切り開いていきます。

本レポートは非財務情報なども掲載しており、当社グループが中長期的に付き合うことができる企業であることをお伝えするものです。

ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見ご感想をいただきますよう、お願いいたします。

2019年8月

2016年1月改定

- ### 企業理念
- ◎ 人に興味を持つ
 - ◎ 新しいことに興味を持つ
 - ◎ 未来に興味を持つ

行動指針

人間は面白い。
その面白い人間が作っているのが企業であり、また顧客です。
全ての経済原則、経営理論は、人の行動原理に基本があります。
人に興味を持つ。

新しいことはワクワクする。
技術革新や商品開発は顧客や市場を開拓すると同時に、人間も活性化します。
新しいことに興味を持つ。

未来を考えることは楽しい。
未来は子供たちのものです。
未来を考えれば、人も企業も自分だけでは生きていけないことが分かります。
顧客の発展が無ければ、当社は富んでも長続きしません。
更に、社会に生かされなければ、人も企業も存続し得ません。
未来に興味を持つ。

一方、当社には1968年に制定した、社是〈必達〉があります。
上記の企業理念と共に、歴史ある社是〈必達〉を、誇りを持って遵守しています。

社是 **必 達**

私たちはカラーページを担う大日精化の社員として
〈必達〉の社是のもとに誇りを持って仕事をすすめよう

- 1、仕事は必ず目標を立て、これを必達しよう
- 1、正しい製品知識を身につけ、製品普及のチャンスを積極的に求めよう
- 1、仕事を通じ製品を通じて、会社の信用を更に高めよう
- 1、社会人として常に教養を高め、反省を深める機会を持つ
- 1、仕事を通じて社会に貢献し、大日精化を最高の企業体としよう